

平成 30 年度 第 1 回八尾市自殺対策計画審議会 議事概要

1 日時：平成 30 年 7 月 13 日（金） 午後 2 時～午後 4 時

2 場所：八尾商工会議所 3 階 大ホール

3 出席委員

委員 16 名中 15 名出席

4 内容

(1) 八尾市長挨拶

平成 30 年度第 1 回八尾市自殺対策計画審議会開催させていただきましたところ、本当にお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。また、竹島先生におかれましては、川崎市からわざわざ足をお運びいただいていることに感謝を申し上げる次第です。

八尾市の自殺の状況につきましては、これから報告がございますが、平成 22 年で 74 名という数字があります。おそらく私の記憶するところでは、大阪一番のワーストワンの記録であったと思います。それ以降若干減少傾向が続き、今だいたい年間 40 名前後のなくなる方がおられる現状です。昨年の交通事故の八尾市における死亡者は 3 名ですから、そういったことを考えますと、自殺で亡くなる方が 10 倍以上と、こういう状況の中で、一人でも命を救うための取組みをしっかりとしていかなければならないと、このように考えています。

八尾市においては、ゲートキーパー養成講座を開催しながら、寄り添える、あるいは気付く、あるいは繋がる、あるいは見守りができる、そんな体制を少しでも多くの方々に取っていただけるための取組みを推進してきたところです。自殺の要因というのはいろいろありますが、やはり複合的にいろいろな悩みが交差をした中で自殺に至るとい、こういうことが報告されています。また、だいたいお亡くなりになる一ヶ月前くらいにはそういうメッセージの発信をどこかに残されているという経過も持っているという聞いていますので、そういった気付きが非常に大切だと考えています。

八尾市は地域分権を進め、まちは人、八尾は人と、こういうフレーズで取組みを進めています。すべての人たちが悩みなく、通常の生活をできる、そんな環境をつくりだして行こうということで、地域住民の皆さん、地域に職員が入り込みながら、地域に不安を抱えた人がいないかどうか常に相互に協力しながら、助け合える社会環境、あるいは八尾のまちを作り上げていくということを基本にしているところです。

今回計画審議会を設置させていただき、そして、あとでこれも出てきますが、当然八尾市の中におけるアンケート調査を実施します。現状をしっかりと再認識し、さらにもう少しアンケートの中では、深堀をさせていただくという意味では、近親者の中で自殺に至った方々については、聞き取りまで進めるというようなアンケート調査にさせていただければということで、検討をしています。

しっかりと八尾市の現状を掴み、そしてまた、皆さん方の知見をいただきながら、八尾における自殺対策がしっかりと進むよう、そして一人でも悲しい命がなくなるような、事象が一件でも少なくなるように八尾市としても全力を挙げて取り組んでいきますので、どうか皆様方におかれましては、皆さんの知恵をお借りして、計画の中にしっかりと入れ込んでいけるように、そして私たちがそれを実現できるように、市民の皆さんとともに頑張っていきたいと考えていますので、どうか忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願い申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

(2) 基調講演「自殺対策の考え方」

(3) 委員紹介

(4) 会長・副会長の互選

委員の互選により、会長は竹島委員、副会長は都村委員に決定

(5) 議事

①自殺対策計画策定の趣旨および八尾市における自殺対策の現状について

◇事務局

資料に沿って、事務局から説明

◆市民公募委員

資料 16 ページの上位 5 区分について、「1 位：男性 40～59 歳有職同居」は、基本的に地域で働いており、働いているゆえに行政へのアクセスがほとんど無いと

いう認識でよいか。この層は昼間働いているゆえに、失業していればハローワークへのアクセスはあるだろうが、行政へのアクセスが無いから、行政が捕捉しにくいのではないか。

◇事務局

自殺者数では、働いている男性は多い。働いている層であるため、日中昼間に行政に困りごとがあってアクセスしやすい層ではないと思われる。

◆住民代表者

資料5 ページについて、ゲートキーパー養成講座を平成23年度からずっと行っているが、中身はどんなことか、今まで何名がこの講座を受けたのか。

◇事務局

ゲートキーパー養成講座の中身は、自殺の現状を受講者に伝え、身近に困っている人がいれば、どんな声かけをしたらいいかをロールプレイを用いて練習し、それを実際の場面でもってもらえるような、参加型の研修をしている。受講者数は、これまでに約560人近くを対象に講座を開催してきた。

②自殺に関する各委員からの意見

◆医療関係者

地域特性を把握しながら自殺対策していくことが必要と思うが、八尾はいったいどのような所なのかよく特徴が分からず、八尾市の中でどんなかたちで困っていて、追い込まれて自殺する方が多いのだろうか、もう少し具体的に把握する必要があるのではないか。

自殺対策にはPDCAサイクル、計画を立てて実行して、その成果を評価してまた行動することが必要と思うが、これをいかに効率的にやっていくかが重要な点であり、なおかつ難しいところではないかと思う。

私は精神科医療の現場にいる人間であり、医療として自殺に直接関わるような方々、うつ病、うつ状態になった患者のケアを担当しているが、日々感じるのは連携の難しさである。医療の立場で薬を出したり相談したりすることがメインだが、それ以外のその人の持っている色々な問題について、なかなか他の部門と連携をとるのが難しい。これには個人の秘密等もあり、どこにどうアクセスしたらいいか分からないことも多くある。

自殺対策は、自殺で亡くなる人を減らすと同時に、市民の防ぐ力を高めるところが非常に大事と言われている。八尾市は非常に人情に厚い地域に入っていると思うが、そういうことをどう使って解決していけばいいのか、私にできることをしたいと思うし、皆さんの意見も聞きたいと思っている。

◆医療関係者

私も精神科医として35年くらいやっている。精神科診療所では直接死に関連する病気はほとんどない。あるとすれば、摂食障害、拒食症と自殺。やはり自殺されると診ている医者としてかなりダメージが残る。丁寧に見ているつもりではあるが、開業してから自殺者数がどんどん増えていき、ようやく数年くらい前から減少している。自殺対策基本法ができる等、様々な対策ができたために自殺者数が減っているなら、それは非常に効果があると思われる。常々、個々の診察場面で診ているだけでは、本当に限界があると痛感しているため、八尾市は自殺対策を市として本腰を入れるということで、実りあるものになってもらいたい。

◆医療関係者

資料では、地域の自殺の特徴の1位が40～59歳で、背景に過労や職場の人間関係の悩みで自殺に至ると書いてあるが、15 ページの原因・動機別自殺者数で、1位が健康問題である。経済・生活、勤務問題に比べて明らかに数が違うことに、私は注目している。40歳、50歳の働き盛りの方が職場の問題もあると思うが、健康問題からくる将来の失望感から、自殺に至るのではないかと思ったが、その点はデータの的にどうなのか。

◇事務局

資料にある過労や職場の人間関係の悩みで自殺に至る男性が多いことについては、一例であり、詳細な背景は個別具体的にになるので、実際はここに書ききれない。

原因・動機別については、実際に警察官が遺書等で把握したところでチェック

がついているのが、健康問題となっている。複合的なことで経済・生活問題、勤務問題と重なり合って亡くなるものの、原因・動機として明らかに分かったものが健康問題であるため、数値が高い。複合的なことで最後に健康問題が絡んで、自殺で亡くなる方がいると思われる。

◆医療関係者

健康問題はかなり重要な因子になっていると思うが、健康問題は生きる力の対策として必要かと思われる。

私の専門は歯科医師で、直接自殺に関することは分からないが、人間の欲に食欲がある。特に老人の方は、入れ歯が今まで合わなかったが食べられるようになった等、治療することによって明らかに顔の表情も変わってくる患者もいる。食べることは人間にとって重要であり、人間生きるためには口からものを摂食しなければいけないため、口腔器官の重要性を感じている。

◆医療関係者

私は薬局で日々過ごしている。高齢者の方と接していて、特に認知症の方は、あれっと思う方やうつの方で大丈夫かなという方がいる。そのような時に連携の難しさを感じる。

◆その他市長が適当と認める者

弁護士という職業柄、色々なトラブルを抱えた方の相談等を聞いており、その中には、かなり精神的なダメージを被って、精神科医療機関を受診している方もいる。

自殺で亡くなったケースを知っている会社の代表者には、会社の経営問題、借金問題があった。自殺の原因について、特定のことだけでなく色々な要素が絡み合っているということだが、弁護士として助力できる場面は、いろいろ法律に従ってということになる。八尾市においては、多重債務ごとにヤミ金に追い込みかけられて線路に飛び込んだ、ということが以前マスコミの注目を浴びたが、そのケースでは我々と接触できていれば、多重債務の部分はクリアできたのではない。アクセス窓口あるいは連携は非常に重要と考える。

◆市民公募委員

私の立場の紹介と成功事例を話したい。私自身、子どもの時にいじめられており、それは大人になってから発達障がいと分かった。一旦失業したものの、大阪府と、当時住んでいた市、国の連携によって、今の勤務先に勤めることとなり、今、発達障がいの方の支援をしている。私自身、市の福祉部局、社協など複合的にアクセスされたおかげで、助かっているところがあり、マルチアクセスはかなり重要であると認識している。そこで感じたことを4点申し上げたい。1点目は、コーディネーターの養成が必要である。マルチアクセスさせるために医師、口腔外科医、弁護士、社労士、行政、これらと話し合いをもてるコーディネーターの養成は急務である。2点目は、今までの行政スタイルの変化である。今、専業主婦は5%台で、独身の男女が多いと、我々の認識改革が必要かと思われる。3点目は、教育面で人権教育に加えて金融教育の実践。特に幼少期から、証券会社がしているような金融教育、お金に対する意識を持つことで、過度な借金等々減るのではないかと思う。4点目は、マルチアクセス。これは2つあり、1つは法テラスや先ほどの医師、弁護士などから他への場へのアクセス。もう1つは、アクセス時間、面談方法、Eメール、電話等々でマルチアクセスできるように相談体制を整えてほしい。

八尾市の特徴として、いい意味でのお節介があるので、これをやりつつ、当人に介入して防げたらと思う。

◆市民公募委員

私は以前ゲートキーパー養成講座を受け、その時に初めて存在を知り、そこから数年経って、今回市政だよりにこのような審議会があるということで、トライしようと呼募した。遺された者がどんな予防対策ができるのかを考えると、思う。自殺で亡くなるなんていけないとはっきり言う方もいるが、それを選ぶことしかできなかったことで、周りにいる者はどうして気付けなかったのか、SOSが出ていたのではないだろうか、色々なことを考えたりすると思う。

私は在宅で子育てしている方たちの集いの広場という子育て支援をしている。最近はその保護者の話が自由にできるような場所の提供を月2回ほど開催している。そこから、子育てといっても本当に経済的なことや病気のこと等、様々な

問題が関係しており、いかに早く気付く人が側にいるか、出会えるかが大事ではないかと感じ、皆さんと一緒に考えたり学んだりできたらと思う。

◆住民代表者

私は以前から高齢者の居場所ということで、ふれあいサロンをずっと各地区に広めている。ここ数年、高齢者だけでなく、あらゆる方が集える場所が必要ということで、ふれあいサロンを多世代が交流できる場を地域で展開するような働きかけをしている。また昨年からは、中学校にて近隣でちょっとした助け合いができるような関係づくりを試みており、今年度は助け合いに向けたワークショップの開催を、地域住民のネットワークづくりをしている。このようなネットワークができて、近隣で顔の見える関係が作れることが、自殺対策に繋がっていくのではないかと考え、この場に参加した。

生活困窮者自立支援事業を行うなかで、生活困窮者の相談事業、認知症や精神疾患を持つ方の法的・福祉的なサービスの契約事務を代行するかたちで、色々な事業のなかで、自殺の可能性につながっていく方々を事前にコンタクトとれることがある。事業で全ての職員がゲートキーパーの意識を持ちながら、業務とこれから向き合わないといけないと感じた。

◆住民代表者

私はまちづくり協議会の会長や福祉委員会役員をして、私も今年初めてまちづくり協議会主催の子どもに対する金融教育というかたちで、親子で学ぶお金の話をファイナンシャルプランナーの方を呼んで行う予定である。資料 1 ページに、自殺は全国的に 13 歳から 39 歳の若い世代の死因第 1 位になっているということだが、八尾市のデータで見たら、20 歳未満は 5 年間で 0 である。小学校時代から自殺に対する子どもへの啓発も、これから審議する上で検討をしていただきたい。

◆住民代表者

私は普段、民生委員児童委員をしているが、いつもと様子が違う知人と話をした末、知人の家族が自殺未遂をしていたと分かったことがあった。いつもと違う様子の知人の言動を目のあたりにし、そこまで知人が追い詰められているのかと思った。私はこれからもその方と会うことがあり、うつの人には慰めてもいけない、励ましてもいけない、ましてや怒ってもいけないため、今後この人とどのように接したらいいのか思い、また教えていただき勉強したいと思う。

◆その他市長が適当と認める者

八尾市地域包括支援センターの職員で、介護保険が始まったときからケアマネジャーとして働いている。地域の高齢者の自宅を回っていて、やはり高齢者になると友達や主人が亡くなったり、与えられた職務の役割が無くなったり等、喪失感からうつになっている方をたくさん見てきた。

そこで精神の勉強するため精神保健福祉士を取り、ゲートキーパー養成講座を受けて勉強したが、自殺から救うことができないことがあった。70 歳の女性が服薬で自殺未遂をして、帰ってきてからの支援を依頼されて、保健所の方と一緒に見守りし、精神科クリニックの受診に一緒に行ったりした。しかし、なかなか訪問看護に入れることができず、ヘルパーを入れようというところで自殺で亡くなってしまい、救うことができずにうやむやな気持ちが一残っている。

高齢者の現場でずっと働く者として、この審議会では何か意見言えたらと思う。

◆関係行政機関の職員

東大阪労働基準監督署で勤務しており、労働者が対象者となる。現在、過重労働、長時間労働を含めて、パワハラやセクハラ等で精神障害、うつ病になり、労災請求をして認定されるケースもある。メインは労働災害の防止だが、やはり健康でないと仕事ができないために職場でのメンタルヘルス対策も指導している。厚生労働省でも、こころの耳ということでポータルサイトの立ち上げもされており、最近ではネット環境が非常に充実していることから、職場でセクハラ、パワハラを受けて居場所に悩んでいる等を厚生労働省のホームページに投稿できるサイトもある。そこで各監督署に情報提供され指導する流れもあり、今後この場でその情報提供できればと思う。

◆関係行政機関の職員

こころの健康総合センターでは、自殺対策として情報提供したり、研修を行っ

たり、電話相談をしたり、遺族の方の相談を行っている。大阪府としては、計画に当たるものとして自殺対策の指針をつくり府として自殺対策の推進をしているが、今回八尾市で自殺対策の計画を作るにあたり、竹島先生の講演等々を聞いて感じたことを伝えたい。

WHOの世界自殺レポートによると、広い他部門によるアプローチを必要とされており、ネットワークの話に関係すると思った。また、地域包括ケアが実は自殺対策と表裏の関係であるという話も、自殺対策という名前でなくても、それぞれの関わりが自殺対策になるのではということ、あるいは自殺対策の法律ができた前後にできた様々な法律も関係している話であった。その点を考えると、八尾市は住民に身近な所にある行政機関で、直接住民の話を聞いたり相談を受けたり、あるいは相談でなくとも様々な手続きをする窓口を持つ所では、直接関わることができる場所かと思った。

八尾市に庁内のネットワークがあるとのことであるため、是非そのネットワークの会議を充実していただき、各窓口に来た方の背景に、“実は違う重みがあるのでは”と気付いて必要なところにつなぐ。つなぐことについて、言葉で連携と言うのは簡単であるが実は難しく、「その窓口へ行きなさい」では行けない方もいるため、丁寧に「窓口の誰々さんに今だったら行ける」というように伝え、場合によっては一緒に行くことも含めてつなぐ。つないだらさようならではなく、行ってどうだったかとその後のサポートもすることが、本当は大事な連携になるのではないか。それを行えるのが市であり、同じ市内に様々な窓口がある市の強みになると感じた。

国の自殺総合対策大綱では、今までは生きることの阻害要因を減らす対策だったと思うが、新しい大綱では、生きることの促進要因を増やすという内容があり、それをどう見つけるかも今後の課題になると思うため、八尾市の計画にもその内容を盛り込んでいただきたいと思います。

◆関係行政機関の職員

冒頭の田中市長から、平成29年の交通死者数は3名、自殺者数は38名と話があり、非常に多い数字だと思っている。交通戦争といわれていた昭和時代に数々の対策がなされ、交通事故者数は減ってきた。最近では、街頭犯罪は平成13年に史上最高の認知件数を踏まえて各対策を行い、自治体、地域住民、関係諸機関、警察、色々な連携のもとに、街頭犯罪が減っていった経緯もある。警察は自殺、自殺未遂のいわゆる最前線に立っているが、各対策が警察のできる範囲で連携して、非常に重要な役目を担っていると思う。今後、これらの対策が進み、自殺者数が減っていくことを警察の仕事として、連携していきたい。

◆市民公募委員

労働局でいえば監督系の方がいるが、ハローワークを管轄する安定系が抜けているのではないか。所轄のハローワークや労働局を経由して安定系に情報提供してほしい。また、厚生労働省で労働局と厚生局の2つの大きな壁を感じた。このようなことも自殺関連に係ってくると思うため、年金機構、協会健保、厚生局系、労働局系の監督だけでなく、安定系にもデータ共有できるようにしていただきたい。

③自殺対策計画策定に向けた八尾市こころの健康に関する住民意識調査の実施について

事務局より、こころの健康住民意識調査の実施について説明。7月20日まで各委員からの意見・質問を取りまとめて各委員へ返答し、その後会長との相談の上、調査票の内容を固めて市民に送付していく予定。

④策定スケジュールについて

事務局から、住民意識調査については7月下旬あたりに開始して次回の審議会までに取りまとめること、また次回の審議会については、9月26日水曜日の午後2時から4時を予定していることを説明。